

Q&A Q: 卒業見込みの者と既に卒業した者のそれぞれに、合格枠を設けていますか?

A: いいえ。合格枠を分けず、同じ基準で選考しています。

Q: 他学部や他大学と併願することはできますか?

A: はい。できます。

Q: 在籍する高校が2学期制のため、3年生前期の成績が反映された調査書を出願期間内に提出することができません。どうしたらいいでしょうか?

A: 2年生の後期までの成績が記載された調査書を出願時に提出してください。その上で、調査書の備考欄にそのことを記載してください。3年生前期までの内容を記載した調査書は、2026年10月9日(金)までに、全国自己推薦入試係まで「簡易書留・速達」で提出してください。

Q: 出願資格4の中の「その他、学校外での諸活動」とはどのようなものですか?

A: 高校生活とは直接関係のないもので、学芸系・スポーツ系・ボランティア活動など、あらゆる個人的活動を意味します。めざましい活躍を客観的に証明する資料をご用意ください。

◆選考方式

- 日本全国を7つの地域ブロックに分け、ブロック単位で合格者を出す方式とします。
- 地域ブロックの構成は図の通りとします。
- 各地域ブロックから5名程度の合格者を出すこととします。

※地域ブロックは、原則として出身高校所在地による区別となります。ただし、通信制高校の場合は志願者本人の現住所による区別とします。

① 北海道・東北ブロック

北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島

⑤ 関西ブロック

滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山

⑦ 九州・沖縄ブロック

福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

◆過去3カ年の志願者・合格者数

年度	志願者数	合格者数
2026	293人	37人
2025	264人	39人
2024	222人	39人

◆これまでの合格者の優秀活動成績例

- ・囲碁U-20世界大会優勝
- ・囲碁全国大会優勝
- ・将棋全国大会優勝
- ・全国放送コンテスト文部科学大臣賞
- ・珠算全国大会優勝
- ・電卓全国大会優勝
- ・競技かるた全国大会優勝
- ・読書感想文全国コンクール内閣総理大臣賞
- ・エッセイ全国コンテスト大賞
- ・弁論全国大会優秀賞
- ・SGH甲子園最優秀賞
- ・全日本吹奏楽コンクール金賞
- ・箏曲全国大会文部科学大臣賞
- ・吟詠全国大会優勝
- ・情報処理全国大会優勝
- ・全国高校総合文化祭優勝
- ・生徒会活動全国大会入賞
- ・英語ディベート世界大会優勝
- ・英語弁論全国大会入賞
- ・英語論文発表世界大会入賞
- ・鉄道模型世界大会入賞
- ・執筆活動
- ・excel世界大会優勝
- ・日本奏楽コンクール全国大会優勝
- ・平和活動(ユース非核大使)
- ・俳句甲子園全国大会3位
- ・書道全国大会奨励賞
- ・新聞年間紙面審査賞全国大会最優秀賞
- ・ビジネスコンテスト全国大会大賞
- ・アメフト全国大会優勝
- ・ウエイトリフティング全国大会優勝
- ・弓道全国大会準優勝
- ・硬式/軟式テニス全国大会優勝
- ・硬式/軟式野球全国大会優勝
- ・剣道全国大会優勝
- ・柔道全国大会優勝
- ・空手道全国大会優勝
- ・少林寺拳法全国大会優勝
- ・サッカー全国大会優勝
- ・水泳競技アジア大会準優勝
- ・アイスホッケー全国大会優勝
- ・スケート国際大会第3位
- ・相撲全国大会優勝
- ・ソフトボール全国大会優勝
- ・卓球全国大会優勝
- ・バスケットボール全国大会優勝
- ・バドミントン全国大会優勝
- ・ラグビー全国大会優勝
- ・レスリング全国大会優勝
- ・一輪車国際大会優勝
- ・ヨット全国大会優勝
- ・バレーボール全国大会優勝
- ・フェンシング全国大会2位
- など



SSS
社会科学部
School of Social Sciences

Waseda University School of Social Sciences

早稲田大学 社会科学部

<https://www.waseda.jp/fsss/sss/>

全国自己推薦 入学試験

2027年度

出願期間

2026. 9/25金 ▶ 10/1木

プラスアルファ

+αの個性

勉学に励みつつも、
それ以外の何かにも取り組んできた人、
いわゆる受験勉強に力点をおいてきた人とは
一風異なった、「+αの個性」を持つ人を
対象としています。

地域性 重視

異なる地域、文化で育まれた精鋭が全国から集えば、
活気が生まれ、互いに刺激しあいながら成長できる。
「全国自己推薦入学試験」は、こうした効果を期待しています。
これは、本学部が掲げる“社会に開かれた学部”
という理念にもつながっています。

お問い合わせ先 早稲田大学 社会科学部「全国自己推薦入学試験」係

この入学試験に関する問い合わせ等は、右記の所定フォームよりお願いします。▶

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

<https://www.waseda.jp/fsss/sss/>

〈窓口受付時間〉月～金 / 10:00～16:00



<https://forms.office.com/r/C5HWj7wdFZ>

全国自己推薦入学試験とは

個人の優れた資質と活動実績のある者を 幅広く日本国内および世界より求めています。

出身学校（長）からの推薦書を必要とせず、高等学校または中等教育学校後期課程在学中のさまざまな活動歴をもとに、受験生の皆さんが「自分自身を社会科学部に推薦する」入試制度です。全国で初めて(1989年度入試)、社会科学部が、受験生の“個性”を評価するために創設しました。それとともに、“地域性”を重視し、日本全国を7つの地域ブロックに分け、各ブロックから5名程度の合格者を出すことを目標にしています。“個性”と“地域性”を二本柱とする「全国自己推薦入学試験」へ、積極的にチャレンジしてください。



高校ではどのような活動をしていましたか？

高校在学時には、主に地域活動と部活動の2つに注力してきました。まず、地域活動では二つの取り組みに異なる立場で携わってきました。一つ目の取り組みは、現在では全国的に多く見受けられる若者が主となり行われるまちづくり活動の先駆けとされている、高知市子どもまちづくり基金助成金事業「こうちこどもファンド」へのこども審査員としての参加です。この活動では、小学生から高校生までがそれぞれの視点で地域課題を捉え、地域変革の主体として取り組んでいます。この活動におけるこども審査員は、助成を決定するという重要な役割を担っていました。地域住民を取り込むためにはどのような工夫を凝らせばいいのか、限られた技量の中で影響をもたらすことができるのかといった、同年代からの視点で提案を行いました。この活動を通して、日々の暮らしの中で主観的にまちを捉えるだけでなく、客観的に情報を理解することの重要性を認識しました。二つ目の取り組みは、ドイツ・ミュンヘンにて隔年開催される「ミニ・ミュンヘン」をモデルとして構築された「とさつ子タウン」への実行委員としての参加です。この活動は、こどものまちを創り上げるべく、小学生から中学生の参加者を市民として迎え、①まちの中での経験を通して地元の良さを知ること②年齢・性別を超えたコミュニケーションを創出すること③まちの仕組みの理解を促すこと、を主な目標としています。この活動を通して、老若男女の立場が異なる方々と一つの目標に向かい議論して創り上げることの充実感や魅力を実感しました。

以上の二つの活動を通して、地域社会における若者への期待を感じ、まちを創り上げるうえで若者が一役を担える可能性を大いに秘めていることも実感し、私のまちづくり活動の礎となっています。次に、部活動では射撃部と美術部の二つの部に所属していました。射撃部では、現在の自分には何が不足し、どう取り組むべきなのかといった自己対話を通して、競技力向上ひいては結果へと結びつくという経験を得ました。美術部では、多様な表現技法がある中で、自己の感性や想いを鑑賞者に如何にして伝えるのか考え続けました。作品の発表・展覧もすることで、自身の感性と社会とのつながりを実感できました。

社会科学部を志望し、「全国自己推薦入試」で受験しようとしたのはなぜですか？

社会科学部を強く志望し始めたのは、高校一年時に参加したオープンキャンパスがきっかけです。実際に「全国自己推薦入試」で入学された先輩との対話を通して、これまで取り組んできたものが軸となり、入学後もその軸に沿って探究していくことが十分に可能であると容易に想像することができたからです。加えて、キャンパス内の先輩方の姿がとても生き生きと充実感に満ちていたことが印象に残っています。建ち並ぶ多くの学部棟と学生の活気によって生み出される壮かつ熱気に溢れていた風景に強い憧れを抱きました。「全国自己推薦入試」での受験を決意した理由は、積み上げてきた経験や実績がすべて「+αの個性」として評価してもらえる入試制度に魅力を感じたからです。小学生の頃から継続して携わってきたまちづくり活動や、高校時代に取り組んだ射撃競技での自己対話から結果へと繋げることができた経験、美術部での表現活動、これらすべてが評価される対象となります。だからこそ、全国から多様な人材が集う早稲田大学において、積み重ねてきたものがどう評価され認められるのかを知りたいと考え、「全国自己推薦入試」に挑戦することを決意しました。

実際に社会科学部に入学してみて、どう感じていますか？

入学当初は、履修可能な学問領域の広さに圧倒されました。私が興味をもっているまちづくり分野における課題の多くは、一方向からのアプローチでは最適解案を導くことが困難であると考えています。その点において、社会科学部では、社会学、経済学、経営学など、多種多様な科目の中から各々が必要だと考える学問を選択し多面的な学びを得ることが可能であり、その全てが関心分野への新たな結びつきを生みます。さらに、日本全国そして世界各国から集まる学生数の多さも魅力であると感じています。学生それぞれのバックグラウンドや興味関心のある分野が多岐に渡るため、講義内のグループディスカッションやフィールドワーク等では、テーマに対する異なる視点からのアイデアを学ぶことができます。

また、学際性の高さはもちろんですが、臨床性を高めることができる多くの講義も魅力の1つであると感じています。佐藤洋一教授の「環境表現論I」では、キャンパス外でのフィールドワークを繰り返し、得た情報を表現する多様な技法を学び実践できました。結果として、自己と自己を取り巻く環境との関係性や規模の異なる環境（社会全体、地域コミュニティ）に気づき、向き合う感性を身に付けることができたと考えています。

現在、力を入れて取り組んでいることはなんですか？

大学卒業後、在学中に得た知見や技法を生かし、地域課題に対する提案を行いたいと考えています。そのためにはまず地域の現状を知る過程が重要であると考え、分析や観察に取り組んでいます。現状を知るためには、実際に多くの地域に向向いて現地の方々とコミュニケーションをとる、社会調査や社会統計分野などの講義から学んだ社会科学的側面から現状を理解し分析するといった様々な方法があると思います。いずれの方法を用いるにせよ、人間関係やアプローチ方法との新たな出会いがあり、とても刺激的かつ充実した日々を送ることができていると感じています。

将来の目標は？

現在、都市計画・地域デザインに特化した地域コンサルティング企業に関心を寄せています。これまで携わった活動は、人と人のつながりを重視して取り組んできました。将来的には、このような非可視的な要素に加え、まちの中に存在する資源や空間にも着目して可視的な形で総合的に関わっていきたいと考えています。世界に目を向ける人が多い今日だからこそ、私はローカルな地域に焦点を当て続けていきたいです。将来的な最終目標として、私を形作ってくれた地元・高知県が、いつまでも人の温もりや笑顔で溢れるまちであり続けられるよう、社会科学部での学びを還元し貢献することのできる人材になりたいです。

これからの受験生へ向けて、一言お願いします！

「全国自己推薦入試」では、自分という存在を如何に表現するか、周囲に流されたり埋もれないことが重要であると考えています。しかしながら、特別なことに取り組むことが必要なわけではありません。日常の小さな出来事から自己の個性を見出し、興味を持ち全力で取り組み、積み重ねていくことが結果として合格という大きな成果として表れます。受験期には不安や焦りを感じ悩むこともあると思いますが、そのような時こそ、自己との対話を繰り返し、自分が今何をしたいのか、何をすべきか、将来どのようになりたいのかを具体的にイメージし、信念を貫き続けてください。最後まで、自分を信じ、一歩ずつ歩み続けてください。応援しています。

以下の1～5の「すべて」に該当する者

- 2026年3月に高等学校または中等教育学校後期課程を卒業した者、または2027年3月までに高等学校または中等教育学校後期課程を卒業見込みの者。
- 2026年3月に卒業した者は、高等学校または中等教育学校後期課程卒業時における全体の評定平均値が4.0以上の者。2027年3月までに卒業見込みの者は、1年1学期または前期から3年(4年制定時制は4年)1学期または前期までの全体の評定平均値が4.0以上の者。
- 2026年3月に卒業した者は、高等学校または中等教育学校後期課程卒業時における調査書記載の欠席日数が45日以内(4年制定時制は60日以内)の者。2027年3月までに卒業見込みの者は、1年1学期または前期から3年(4年制定時制は4年)1学期または前期までの調査書記載の欠席日数が45日以内(4年制定時制は60日以内)の者。
- 高等学校または中等教育学校後期課程在籍期間の活動において、次の1つ以上に該当する者。ただし、資格に関しては、高等学校または中等教育学校後期課程在籍期間以前に取得したものである出願も受け付ける。
 - 学芸系またはスポーツ系クラブなどに所属し、都道府県以上の大会・コンクール・展覧会などにおいて優秀な成績を収めた者。
 - 生徒会活動において、めざましい活躍をした者。
 - 資格(語学検定や財務・会計資格など)を有する者。
 - その他、学校外での諸活動(クラブ活動、ボランティア活動など)において、めざましい活躍をした者。
- 英語4技能テストのうち、以下の基準点を満たすスコアをいずれか1つ提出できる者。
 - 実用英語技能検定(CSEスコア):1,950以上 ● GTEC CBT:930以上 ● IELTS:4.0以上 ● TEAP:225以上
 - TOEFL iBT:3.0以上 ● TOEIC L&R / TOEIC S&W:1,150以上

※TOEFL iBTについて、2026年1月20日以前の旧スコア形式で受験した場合、42以上とする。

※TOEIC L&R/TOEIC S&Wについて、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアとする。

※出願期間以前に取得したスコアに限り有効とする。なお、2026年3月に卒業した者は、前文の条件を満たす場合において、卒業後に取得したスコアも出願資格として有効とする。

*下記のスケジュールは変更になる可能性があります。最新情報は入試要項および社会科学部Webサイトを必ず都度ご確認ください。	
7月 上旬	入試要項公開 (予定) 学部Webサイト(ページ下)で入試要項の公開を予定しています。出願書類の作成、活動記録の裏付けとなる資料の収集等には時間がかかるため、余裕を持って早めに入手してください。
9月25日(金) 10月1日(木) (締切日消印有効)	出願 (郵送による受付) 入試要項にしたがって出願書類を作成し、郵送で提出します。第一次選考(書類選考)の検定料は10,000円(第二次選考の検定料は25,000円)です。以下の諸点を考慮のうえ、選考します。 ●成績評価 ●活動記録(大会記録・生徒会活動・学校外での諸活動・資格など) ●出席状況 ●その他
11月13日(金)	第一次選考合格発表 Webサイトで発表します。
11月22日(日)	第二次選考 (試験選考) 早稲田キャンパスで行います。 <input type="text" value="小論文"/> + <input type="text" value="面接"/>
12月11日(金)	第二次選考合格発表 Webサイトで発表します。
12月14日(月)～ 12月21日(月)	入学手続 (一次) 登録料および学費等を振り込むことで完了します。 ※登録料は、入学者に限り入学金に振り替えます。 ※3月中旬に二次手続があります。

▶ 早稲田大学 社会科学部 <https://www.waseda.jp/fsss/sss/>